

新しい福島県農林水産業振興計画 骨子（案）に係る委員意見と回答等

- 1 令和 2 年度第 1 回福島県農業振興審議会（9 月 2 日開催）の意見・・・1 ページ～
- 2 令和 2 年度第 4 回福島県森林審議会（9 月 23 日開催）の意見・・・4 ページ～
- 3 令和 2 年度第 1 回福島県水産業振興審議会（9 月 1 日開催）の意見・・・6 ページ～

令和2年度第1回福島県農業振興審議会（9月2日開催）における委員からの主な発言と応答

No.	委員氏名	項目	発言内容	応答内容等
1	小澤啓子委員	基本目標	<p>「儲かる」を全面的に出すと、「農家は儲けなくてはできない」というようなイメージも受けとめられてしまう。</p> <p>もっと儲からないと撤退しようかっていうようなそんな感じのイメージがどうしてもついてしまう。</p> <p>継続するには儲けだけには走らず、農業することに対するの作物を作る楽しみであったり、消費者へ届けることよっての消費していただける喜びであったり、何かそういうような言葉でうまいものがあれば、もっと誇れる農業っていう、そんなところを出せたらと思う。</p>	<p>県としては、「農林漁業者が意欲とやりがいをもって活躍でき、広く職業として選択されるような持続可能な農林水産業」を目指したい。それを端的に表現したもの。</p> <p>「儲かる」は品が無いとの御意見も頂いたので、再度検討させていただきたい。（技監）</p>
2	橋本正典委員	基本目標	<p>基本に据えるべきは「持続的に経営可能な所得の確保」で、それをどう表現するかだ。</p> <p>計画の基本になるのは営農継続していくために必要十分な所得を確保しながら担い手を育成し、目標とする農業産出額を確保する。もって食料を安定的に供給するという使命を果たしながら、あわせて地域を活性化していくということが基本根底にあると思う。</p> <p>そういう趣旨からすると、資料2-2の基本目標の部分に所得を確保維持するっていう基本目標がなくて、いきなり儲かる農業って出てくるから違和感があるのではないか。</p> <p>スローガンについては、その表現の部分をどのように表現していくか、世の中に受け入れられやすい表現がいいだろうと思う。基本的にそれがなければ担い手は確保できないし生産も拡大しないだろうと思う。</p>	
3	関奈央子委員	基本目標	<p>農業の魅力は「儲かる」だけではないということと、言葉的にあげつない。「儲かる」という意味を調べるとあまりいい解釈されてない。</p> <p>スローガンとして掲げるのであれば、もう少し穏やかな表現の方がいい。</p> <p>ただ、本当に言葉的に難しい。所得が確保されて経営が続けていけることは大事であるので、それを何とか組み入れていける言葉というとなかなか難しい。</p> <p>「稼げる」でもいいかもしれないが、いい言葉が見つからない。</p>	
4	奥平貢市委員	基本目標	<p>「儲かる」については大賛成。儲かるという言葉がなければ、後継者の問題、あるいはこれからの農業に対するビジョンも、もうただの絵に描いた餅。何で後継者がいないかという、儲からないから。</p> <p>きちんと儲かるということを前に押し出してやっていかないとどんどん後継者が減ってしまう。</p> <p>きちんと儲けることのできる農業ということをやはり打ち出していないと先のビジョンが無くなる。</p>	-
5	生源寺眞一委員	基本目標	<p>持続可能な農業経営あるいは農業経営を後継する、あるいは新規就農するという意味で、しっかりした所得が得られることが大事であるという点について、特に委員の皆様からの異論はないだろう。</p> <p>ただ、それが「儲かる」という言葉でもって全体の理念を表していることになるかという、なかなか理解していただけない面があるのではないか。</p> <p>稼ぐ、儲かるというようなことを、もう少し広い言葉があるのではないか。</p> <p>安全で魅力的な農林水産物を供給するのが福島の農林水産業だというようなことがあって、この辺を「儲かる」だけではカバーしきれない部分がある。</p> <p>もう少し、場合によると広い概念で説明していく必要がある。</p> <p>一方、単純に「誇れる」でなく、「世界に誇れる」ふるさとの形成ぐらいのことを打ち出してもいいのか。</p> <p>スローガンであるとするれば、少しアピーリングなものを考えていく必要がある。</p>	-
6	橋本正典委員	第2節 多様な担い手の確保・育成	<p>農業の担い手の確保・育成の具体的な取組として、他産業並みの所得確保を安定的に確保し得る経営体の経営モデルのイメージを示していただきたい。</p> <p>生産対策なりコスト削減を含む経営対策を支援していくということを明記していただければと思う。</p>	<p>ここに経営モデルそのもの示すかどうかというのは非常に難しいが、御意見を意識して本文を考えたい。（農林企画課長）</p>
7	橋本正典委員	第2節 (経営の安定・強化)	<p>経営の安定強化ということで背景・課題が書いてあるが、林業と漁業の背景・課題をあまり言及してないのはなぜかなと思う。</p>	<p>検討させていただきたい。（農林企画課長）</p>

No.	委員氏名	項目	発言内容	応答内容等
8	橋本正典委員	第2節 (農業参入)	条件不利地や中山間地域において企業の農業参入を期待することは果たしてどうなのか、違和感がある。 ここをどう整理しているのか、疑問がある。	—
9	菊地和明委員	第4節 需要を創出する流通・販売戦略の実践	県民の皆さんが県産品を買うというところについては、当然これまでも、施策としていろんな形でやってきているが、やはり売り方というところについては少し考える必要がある。 その意味で、地産地消の推進という一言だけではちょっと力の入り具合が弱い。 売り方の技術、例えば商品の展示だとか、どういう企画をするとか、地元をどう巻き込むとか、どんな形で地元の皆さんを引きつけるかというところについては、これから大きな施策の方向性として力を入れるべき。 地元が盛り上がれば今の時代は一気に情報が広まり、外からも十分に注目してもらえるチャンスがあるので、全体の底上げになる。	県内での需要をきちんとつかんでいくという御意見を頂いたので本文の記載については考えさせていただきたい。 (農林企画課長)
10	満田盛護委員	第4節 需要を創出する流通・販売戦略の実践	地産地消とか地消地産という言葉は昔からあったが、本当にそれをもっと強く打ち出してやるべき。 (令和2年1月の清酒まつり・味噌醤油まつりの経験から) 県民でも県内で産出される農産物や加工品を、まだ口にしてない方がいっぱいいらっしゃると思う。 県内を消費喚起しただけで相当な需要があるのではないかと、そのとき感じた。	
11	橋本正典委員	第4節 需要を創出する流通・販売戦略の実践	骨子に「マーケットインの視点を基本に販売促進等を進める」という方向性を示してあるが、具体的な取組を見ると、マッチングとか商談の提供とかオンラインストアの活用にとどまっている。 農畜産物、農林水産物のマーケットインは、流通対策と生産対策を一緒にしてマーケットインの視点を捉えないといけない。 ここは流通の項目だからというのであれば、例えば単にこれまでのように、その素材を市場流通中心に回すだけではもうだめだろう、カットとか一次加工とかをどういうふうにするのか、あるいは同じカットにしても、量販店向けなのか業務用向けなのかによっては対策が変わってくるので、そういったところも意識した流通対策を書くのであれば書いてほしい。 マーケットインの視点というのであれば、「(2) ふくしまならではの付加価値化の取組推進」がまさしくマーケットに立った生産活動なので、本当はこのところを一体的に体系的に整理していただければと思う。 少なくともこの課題認識のところに「マーケットインの視点に立った生産活動が必要」ぐらいは入れてもらえるとうわかりやすいかなと思う。	第5節の方で最低でも背景／課題のところが必要だという御意見も頂いたので、第4節との関係も踏まえながら考えさせていただきたい。(農林企画課長)
12	宗像実委員	第5節 戦略的な生産活動の展開	酪農で実績が伸びている県は「規模拡大」を推進している。 儲かる農業として農業経営として成り立ち、他の産業の企業の収入よりも多くなれば、後継者も確保できる。 これからは、規模拡大する農家をどういうふうに支援していくかが重要である。	規模拡大については、御意見のとおり、文章化の際にきちんと書き込んでいきたい。 (農林企画課長)

13	橋本正典委員	第5節 戦略的な生産 活動の展開	<p>農業産出額の目標達成に必要な作付面積や担い手、生産者数などを設定しながら、そのために必要な戦略や政策、あるいは財政支援も含めた支援措置などを記載することが必要。</p> <p>各品目単位の目指す姿なり戦略についての記述が全体的に弱い。</p> <p>特に第5節にキーワードとしてきちんと書いてあるのは分かるが、体系的に見るとわかりづらい。</p> <p>個別計画の中で、各品目の戦略などを具体的に示していくのであれば、その旨をはっきりと第5節に書き込んでいただきたい。</p> <p>そうしないと米にしても園芸にしても、どうするんだっていう全体が見づらいし分からない。</p> <p>水田農業については、決してコロナの影響だけではない、むしろ構造的に需要が減少している中での事態と認識する必要があり、単に主食用の作付けを減らして非主食へ転換する取組だけでは限界だろうと思う。麦・大豆なりあるいはほかの飼料作物への転換をどういうふうに進めていくんだとか、あるいは高収益作物への転換を進めていくとか、そういった部分がないとなかなか先行き見通せないのが現状だろうと思う。</p> <p>園芸についても、ふくしまの恵みイレブンを始め重点品目について、例えば県内全域で拡大を目指していくのか、あるいは各地方ごとに重点的に進めていくのか、そのようなことをメリハリつけてそれを各地方の戦略展開方向の中に位置づけていただければいいかなと思う。</p> <p>要するに、生産の部分なり流通対策の部分各地方農林事務所単位の地方対応戦略の中に落とし込んでいただければと思う。</p>	御意見を踏まえ、書き方を検討させていただきたい。(農林企画課長)
----	--------	------------------------	---	----------------------------------

No.	委員氏名	項目	発言内容	応答内容等
14	中田幸治委員	第5節 戦略的な生産活動の展開	きゅうり・トマト・アスパラガスの他に、今後力を入れていく野菜の中で、フィールド作物も両車輪で考えて欲しい。 新規就農者には、イニシャルコストが安い作物（例えばキャベツなど）もいいのではないか。 福島県の農地は高低差があるので、県内で産地間リレーも行えるのではないか。	—
15	中田幸治委員	第5節 (循環型農業)	(魚かす、酒かす、竹、木など) 資源を無駄にせず、堆肥にして循環利用する取組を計画に盛り込んでほしい。	—
16	石井圭一委員	第6節 (農林水産業・農山漁村に対する意識醸成と理解促進)	福島の今の農林水産業の状況を、いかに発信していくことが非常に大事。 県としての広報活動はもちろんのこと、関係の団体の広報も含めて、例えばホームページの充実など様々な活動が間接的に福島の知名度を上げることができる。 「福島」の知名度は、東京とか京都などともう匹敵するぐらい海外に知らない人はいないくらいなので、そういう意味では今までと違った、今まで以上に福島の情報発信活動を展開すれば、関心を引きつけ、最終的に担い手の確保に結びつく。情報発信を、もう一つ1段上げた形の活動が必要。	福島をしっかりと知ってもらうという活動がきちんと必要だという御意見を踏まえて本文の際に検討させていただきたい。(農林企画課長)
17	関奈央子委員	第6節 (農林水産業・農山漁村に対する意識醸成と理解促進)	農業への就業に対する意識醸成のために「農業高校生等を対象とした産地見学会やインターンシップの実施」は記載があるが、「幼少期から就農への意見意識を醸成」の記載について、より具体的には、中学生に職業教育の一環として若手の農家を派遣して授業するようなことはできないのか。 職業として農業を意識するためには、中学生ぐらいへのアピールが必要である。	御意見を踏まえて、検討させていただきたい。(農林企画課長)
18	橋本正典委員	指標	農業産出額については、品目単位に、例えば水稲なりあるいは果樹の品目、野菜の品目、どこまで細かく書き込めるかは別として、産出額の目標を掲げることが必要。	御意見を踏まえて検討させていただきたい。(農林企画課長)
19	生源寺眞一委員	全体	計画の内容として、一般論はもちろん必要だが、もう少し具体的な形で方針なり取組の中身を提示することが大事。 具体的な取組を強調する部分と、そうでない部分が出てくる面があってもいいのではないか。	—
20	橋本正典委員	全体	参考2の6ページには、水田農業の部分と野菜園芸振興方針については名前が挙がっていないので、示していく必要がある。	個別計画との関係については、御意見も踏まえて事務局で検討させていただきたい。(農林企画課長)

令和2年度第1回福島県農業振興審議会（9月2日開催）の終了後に頂いた意見

No.	委員氏名	項目	意見	備考
1	中村啓子委員	第4節 需要を創出する流通・販売戦略の実践	県民への販売強化の推進は、もっと積極的に見える化をしてほしい。 県民一人ひとりが誇りをもって県外の方に発信していける状態になればと思います。 資料2-4（計画骨子）P16の具体的取組に「県内における販売強化」を挿入し、「具体的取組」の42行の農産物直売所で直売所の設置数や販売金額等で評価されてはと思います。	

令和2年度第4回福島県森林審議会（9月23日開催）における委員からの主な発言と応答

No.	委員氏名	項目	発言内容	応答内容等
1	田坂委員	基本目標	「儲かる農林水産業の実現」と「活力と魅力のある農山漁村の実現」では、「実現・実現」と同じ言葉になっている。 「儲かる農林漁業の実現」については、中々これはハードルが高いと受け取っているの、こちらを変えたほうがいいのではないか。	ハードルが高いという御意見がありました、やはり、そこをクリアしていかないと中々、林業や農林水産業に携わる方の後継者が魅力をもって来られないという思いもありまして、案としては記載させていただいております。 (農林企画課長)
2	酒井委員	基本目標	スローガンに「儲かる」という言葉は使わない方がよいのではと思います。儲かることが目標ではない人もいます。 職業としてあるいは暮らし方として魅力があると思うので、「魅力的な」とか、「次世代につないでいける」とか、もっと穏やかな表現もあるのではないか。	子供たちが大人になっていく中で、農林水産業を職業として選んでもらわないと困る、というのが一番大事なことだと思っております。 そういうことをはっきりと分かりやすく示す必要があるので、「儲かる」としました。我々も今までは持続可能とか、魅力的なとか、そういう言葉を使ってきましたが、ちょっと逃げやすい文言となります。 担い手・人材の確保というのが最重要課題だと思っております、それに対応するためには、職業として選んでもらうためにどうしていいのかということで、このような形で出させていただいたところで、本日頂いた御意見も踏まえながら、また更に検討していきたいと思っております。(技監)
3	今野委員	基本目標	やはり「儲かる」が引っかかる。本文で安定的とか、持続的な発展というような言葉が入った、安全で魅力的なというようなことがあるので、その辺をこちらにうまく盛り込んで、農林水産業の実現と誇れるふるさとの形成というようなところにもっていったらいいのではないか。	
4	齋藤澄子委員	基本目標	「儲かる」という言葉は、ちょっと露骨な気がするが、儲からないと、自分のやる気の以前の問題も出てくるでしょうし、本当にふるさとが発展していくには、ここ福島県はほんとに仕事をやって儲かっている、そういった地域だということも、一番大事な事かなと思う。 「儲かる」は、私としては極力避けたい言葉ではないです。	
5	白岩委員	基本目標	「儲かる」という表現はインパクトが凄い大きいと思う。 林業は確かに危険を伴いますし、汚いとか汚れる仕事です。なおかつ、担い手が不足しているということで、その分見返りが無いのが現実です。素材単価もここ20年で半分になっているのが現実なので、「儲かる」林業、農林水産業の実現ということは、ここの表現は私は大賛成です。	-
6	緑川部会長	基本目標	国は森林の公益的機能を前面に出しているが、林家とすればそれを目的とする人はいないと思う。林業経営が成り立つようになれば、副産物として公益的機能が発揮される。それには、口は悪いんですが、「儲かる」林業、儲からなくても何とか維持できる林業でないといけない。 この「儲かる」林業というのは、我々林業者から言わせると、おかしいところではない。	-
7	藤野会長	基本目標	まさに実践されている方々から、「儲かる」は当たり前だというお話があったと思います。ポイントはおそらく、やられている方の感覚というところを、どれだけ覚悟をもって、県が儲けに行くのか。逆に、役所が言う「儲ける」とはどういうことかということ。	-
8	齋藤久美子委員	基本目標	言葉は変ですけど、「儲かる」というのはとても重要なことで、逆に言うと「儲かる」というスローガンが出るということは儲かってないと思っている人が多いということだと思ふ。目標とするこれぐらいあれば儲かっているという、みんなが思う具体的な数字を入れればいいのではないか。	(それぞれ経営形態が異なるので)一概にいくらというのは難しいと思っております。個人の場合は、他産業並みの所得以上ということを考えております。(農林企画課長)
9	藤野会長	基本目標	金額が出てくると、農・林・水なので、農業のこれぐらい欲しいという一般農家の金額と、林業の方の会社としてこれぐらい欲しいという金額はだいぶ差が出るでしょうし、当然この中には社員も含まれていますので、雇われている方の欲しい金額と会社が欲しい金額もだいぶ変わってくると思うので、施策の更に下のところで目標として持つておくぐらいがいいのかなと思います。	
10	齋藤澄子委員	基本目標	基本目標の「ふるさとを誇りと思えるように」は、ふるさとを誇りに思っていないように聞こえる。言葉を考えていただければと思う。	御意見を参考に、本文の記載の表現については再度、検討させていただきます。(農林企画課長)

No.	委員氏名	項目	発言内容	応答内容等
11	齋藤久美子委員	基本目標	<p>今実際に、農林水産業に携わっていらっしゃる方が、「儲からない」と言いながら仕事をしていると、それを見た子供たちは、絶対に仕事には就かない。</p> <p>発展させるとか、魅力あるっていうと、どうしても他人事に聞こえてしまうので、実際に働いている方たちに寄り添っていただいて、さっきの覚悟ではないが、県が農林水産業を儲けさせるんだっていう、そういう意識をもって計画の策定を進めていただきたい。</p> <p>イメージとしては、高校生が、この計画を読んで、「農林水産業には夢があるからやってみたい」って思ってくれるような、計画を是非、作っていただければと思います。</p>	—
12	秋元委員	基本目標	<p>職員の雇用条件で大事なのが土日祝日休みの月給制。荒天時でも内業の仕事がある。</p> <p>「儲かる」農林と言いましたが、経営者は林業で「儲かる」人は絶対いません。管理する人は「儲かる」林業はできますが、山を持つてる人は絶対にお金になりません。</p> <p>言葉の綾なんですが、それを管理してる森林組合とか林業に携わっている人は、「儲かる」林業はできると思うんですが、経営者を見たときに、「儲かる」という言葉は難しい。</p>	—
13	荒川委員	基本目標	<p>製材業についても人気がありません。全然若い人が入ってきません。今後色々戦略して、意見交換等を進めようと考えている。</p> <p>魅力あるこういう計画等を作っていければいいのかと思います。</p>	—
14	酒井委員	第2節 多様な担い手の確保・育成	<p>農・林・水産、みんなで一緒になったネットワーク作りも必要ではないかと思っています。新規就業者たちを集めて、ネットワークを作って、商品化して、店先で販売するというような非常に自立した生活もステップアップに繋がり、また、課題解決の為に新規就業者に仕事の機会を増やしてあげるようなうまい繋がりを持たせてあげるといいと思います。</p> <p>人と人を繋げて、若い方のITを活用した情報発信等、色々な解決方法も考えられるので、この3つの農・林・水で、同じ課題にみんなで向き合っていくって姿勢は大事なかなと思います。</p>	<p>委員から御指摘あったネットワークについては、就業した後のことも含めて、地域でみんなで動けるようなネットワークというような御意見かと思っています。</p> <p>現状で、農と林と水の全てを一体と意識をして、ネットワークというものはないですが、今後、若い人が集まって地域を盛り上げていくっていう意味で大切だ、と理解はしましたので、検討させていただきます。（農林企画課長）</p>
15	豊田委員	第2節 多様な担い手の確保・育成	<p>いろいろな施策の中で、人材対策と言われてるが、先ほど言われましたネットワークとか、農業も含めてですけども、中山間地域には人はいない。だからネットワーク組もうにも、生活が成り立たない。でも、その辺をどうにかしたいということで、いい方向へもっていただきたいと思います。</p>	—
16	今野委員	第2節 多様な担い手の確保・育成	<p>ある程度職業に就くという選択の段階の話ではなく、もうちょっと前から、林業を学校教育の中に小学校とかの中に農林水産業を仕事として選択する基盤を作る授業を入れて欲しいと思います。</p> <p>森林環境学習は、あくまでも環境の学習、森林に関する環境の学習であって、生業としての林業を学んだりする授業というのはやっているところがあまりないと思う。</p> <p>農林水産業を職業としている人がいるという教育をもうちょっと取り入れるべき。</p>	—

令和2年度第1回福島県水産業振興審議会（9月1日開催）における委員からの主な発言と応答

No.	委員氏名	項目	発言内容	応答内容等
1	原田委員	基本目標	「儲かる」という表現は人によって受け止めるニュアンスが異なるので、私は儲かるという表現はやめた方がいいと思う。 後に繋いでいけるような、しっかり採算がとれる、利益が出せる農林水産業を行ってほしいということ、また、環境問題、水産資源の持続的な利用ということも踏まえて「持続可能な農林水産業」と書いた方がいいと思う。	—
2	野崎委員	基本目標	国の支援事業に「もうかる漁業創設支援事業」という言葉もあり、現場として違和感はない。若く未経験で就労する方へ明るいインパクトを与えるスローガンを掲げてほしい。	—
3	鈴木延枝委員	基本目標	経営として成り立っていくかどうかというのは、職業選択するときによく関心のあるところ。 ちゃんと利益が出て、やっていけるというようなニュアンスの意味に置き換えながら、儲かるというようなニュアンスをきちんとはつきりとした言葉で入れた方がいいと思う。	—
4	鈴木延枝委員	基本目標	「誇れるふるさとの形成」について、国の基盤となる第一次産業は非常に重要なため、仕事についても誇れるという意味を含めた方がいい。	—
5	大越委員	基本目標	スローガンに「儲かる」という実質的な文言を用いることで、評価の際に責任が明確になり、次に進むより前向きで実質的な評価になる。県の覚悟や積極性が読み取れるため良いと思う。	—
6	原田委員	基本目標	儲かるというのは、所得でどのくらいか。	沿岸の小型船で最も小さい規模のもので収入1,000万以上という目標で考えております。（水産課長） イメージとしては、農林水産全体として、他産業並以上の所得を得るということを相対的には「儲かる」という言葉にしたいと考えています。（農林企画課長）
7	鈴木延枝委員	第2節 多様な担い手の確保・育成	水産業における担い手の確保について、具体的な就労の仕組みについて知りたい。	沿岸漁業では、漁業集落の中で、その漁家の後継者の皆さんが漁業の担い手として漁業就労者になっています。 一方で、まき網漁業や遠洋のマグロ、サンマ漁業につきましては、水産系の学校を出た方が学校を出てすぐ船に乗って出国されるので、新入者の確保が難しくなっております。そのため、大型船の漁業については、国が新入者確保の取組を進めております。（水産課長）
8	立谷委員	第2節 多様な担い手の確保・育成	担い手の育成、確保について今後も県の支援を続けてほしい。	—
9	濱田委員	第5節 （ふくしま型漁業）	若い世代は「儲かる」という視点より、コストパフォーマンスを重視する傾向にある。水産業においても効率よい生産として新しい機械や技術の導入をしていけばよいと思う。	—

No.	委員氏名	項目	発言内容	応答内容等
10	鈴木延枝委員	第5節 (ふくしま型漁業)	沿岸漁業の操業自粛によって、増えた資源を活かした資源管理を推進してほしい。	計画には、「ふくしま型漁業」の実現として挙げており、震災前の6割の漁獲努力で、魚を大きくして獲ることで8割の水揚量をあげて、金額としては価格を上げて震災前の100%の金額をめざすという目論見で記載しております。(水産課長)
11	江川委員	第5節 (ふくしま型漁業)	持続的な産業としていくには、資源保護の取組に加えて、労働環境の改善や高付加価値化の取組が必要。	これから豊かな資源を生かしてどのように若い人たちが魅力を感じる就労環境に持って行くかは一つの課題です。一方で誇りを持って取り組むには儲かる、収入が上がる、水揚げが多いということが大事です。それを融合したものとして「ふくしま型漁業」を掲げ、今増えてきている資源を生かしながら取り組める漁業として強く進めていきたいと考えてございます。(水産課長)
12	立谷委員	第5節 (ふくしま型漁業)	担い手確保のためにも体を持って余さないように、数量的にも時間的にも従来の操業に近づけていかなくてはならない。若い世代が仕事への喜びを感じられる体制づくりが必要と思う。	
13	濱田委員	第5節 戦略的な生産活動の展開	魚介類の放射性物質の問題として、消費者に受容されないということが挙げられ、そのため内水面を含め養殖業へ力を入れるべき。	—
14	北原委員	第6節 (災害に強い農山漁村づくり)	災害に強い農山漁村づくりについて具体的に知りたい。災害で川が氾濫することが多く、ダムばかりではなく、河川の整備が必要。	昨今、毎年のように各地で豪雨災害のような非常に大きな災害が起きている中で、ダムやため池あるいは河川と言ったハードとソフトと適切に組み合わせた対策、あるいは、海岸地域ですと海岸保全施設ですとか、海岸防災林といった施設等の整備と適切な維持管理によって災害に強い農山漁村づくり、国土強靱化に向けた取組をしていきたいと考えております。(農林企画課長)